

# 図画工作科学学習指導案

横浜市立桂小学校 佐藤 柚香

1. 日時・場所 令和4年6月15日(水) 1年1組教室
2. 学年・組 第1学年1組 31名
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

○感じたことや想像したことから表したいことを見付け、思いのままに表す。

○活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。

【A 表現(1)イ(2)イ 絵や立体に表す活動】【B 鑑賞(1)ア】[共通事項]

## 子どもたちの姿

図画工作の時間を楽しみにしている児童が多く、教師が初めに題材を示している場面でも、興味をもって見聞きし、活動に意欲を示す姿が見られる。

4月に「かきたいものなあに」で、パスを使い、自分の好きなものを思い浮かべて絵に表す活動を行った。自分の表したいものが思い付くと、集中して黙々と活動に取り組んだり、教師や友だちと面白さや楽しさを共有しながら活動に取り組んだり、のびのび活動する児童が多かった。しかし、一方で、失敗したくない思いから、慎重になりすぎてしまったり、表現が小さくなってしまったりする児童もいる。

## 教師の願い

材料の形や色を基にイメージを膨らませ、失敗することを恐れずに、自分の思いのままに表すことの面白さや楽しさを感じてほしい。そのために、大きさ・材質・模様が様々な紙を十分な量準備して、紙を破いた感触を手や体全体で味わわせ、いろいろな破き方を何度も試せるようにしたい。また、紙の向きを変えたり、形を付け加えたりすることを提案してイメージが広がるようにしたい。さらに、ICT 端末を使い、台紙に紙を貼ったり絵をかいたりする前に、紙の向きや組み合わせなどを何度も試せるようにし、自分のもつイメージに近付けるようにしたい。

## 題材名

やぶいた かたちから うまれたよ

～びりびりが だいへんしん! なにに みえるかな～

## 題材目標

### ○知識及び技能

紙を破いたりちぎったり、それらを並べたりして思い付いたことを表すときの感覚や行為を通して、紙を破いた感触や、いろいろな形や色などに気付き、クレヨン・パス・のり・紙などに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、イメージしたことを基に表したいことを工夫して表すようにする。

### ○思考力・判断力・表現力等

いろいろな形や色などを基に自分のイメージをもちながら、紙を破いたりちぎったりした感触や、紙の形や色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えるようにするとともに、自分たちの作品や紙などの造形的な面白さや楽しさ、表したいことなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。

### ○学びに向かう力、人間性等

楽しく破いたりちぎったりした紙の形から思い付いたことを表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しい生活を創造しようとする態度を養うようにする。

## 題材について

本題材は、身近な材料である紙を破いたりちぎったりする感触を味わいながら、それらの形の面白さに気付くことをきっかけとして、自分のイメージを広げ、どのように表すかを考え、工夫して絵に表す題材である。また、教師や友だちと形の面白さを伝え合い、楽しみながら自分の見方や感じ方を広げることができる題材でもある。

この時期の子どもたちは、様々な表現方法を試しながら、身近なものに体全体を使って関わり、つくる活動を楽しむことができる傾向にある。さらに、活動の中で、形や色、感触などの特徴を捉え、教師や友だちとの対話を通して、見立てたり物語をつくったりして発想を広げ、自分のイメージをもつ姿も見られる。そのため、日常の生活体験や他教科での学びを本題材に生かしたり、本題材で学習したことを他の題材に生かしたりすることが期待できる。例えば、生活科のアサガオの観察で、葉の形をハートや蝶に見立てていることや、算数科で、ブロックを並べてできた形を花や人間に見立てていることなどを本題材に生かしたり、本題材で学習したことを、1年「いろいろなかたちの かみから」や2年「ざいりょうから ひらめき」などの他の題材と関連させたりして、日頃児童の身の回りにある様々な形や色に興味を広げさせ、豊かに感じたり考えたりつくったりできるようにしたい。

### ○「学習の方向性」を基に、育成を目指す資質・能力と本題材との関連

破いた紙の形や色、模様の特徴から、表したいもののイメージをもつために、材に触れる時間を十分に確保する。いろいろな破き方や紙の感触を試す時間、形の多様さや並べ方や組み合わせの面白さに気付く時間をしっかりととり、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。

## 4. テーマに迫るために

### 研究主題

# 感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造

～ 感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて ～

### 低学年部会テーマ

思いのままに つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

### ○出あいの工夫

学習が始まる前に、朝読書の時間を用いて、本の読み聞かせを行う。五味太郎「きんぎょがにげた」と、エリック・カール「ちいさなくも」の2冊で、どちらもある形を何かに見立てるという内容である。日常においても「見立てる」という経験をさせ、スムーズにこの後の学習に入れるようにする。

学習活動では、破いた紙が素敵な作品になる過程を映像で見せ、掲示しておくことで、学習の見通しをもって、現在どの活動をしているのかを確かめながら、安心して活動に取り組めるようにする。そして、破いた紙を、回したり、裏返したり、付け足したりすることによって、同じ形の紙でもいろいろなものに見えてくるという面白い体験を全員で共有し、「何に見えるか考えて、ビリビリを変身させよう。」と提案することによって、学習に対してわくわくした気持ちをもたせ、自分のイメージを広げながら楽しく活動できるようにする。

### ○場の設定の工夫

子どもたちにとって、机の上だけでは、紙を破って並べるのに十分な広さではないと考える。紙を破いた感触を手や体全体で味わったり、試行錯誤しながら並べたり組み合わせたりする際には、床の上で広く活動できるようにする。そして、表したいことのイメージをもち、紙を付け足したり絵をかいたりする細かい活動の際には、机の上で落ち着いて活動できるようにする。

また、思い付いたことや広げたイメージを、思い浮かべたまま表現できるようにするために、表現方法や接着方法など、子どもたちの手助けとなる掲示をしておくようにする。

### ○共感的支援の工夫

作品が完成した後だけでなく、つくっている途中にも、友だちと作品を見合ったり対話させたりする場面をつくることで、自分には思い付かないよさや面白さがあることに気づき、自分の作品に対するイメージを広げながら楽しく活動できるようにする。

また、表現することが苦手な子どもに対しては、対話を重ね、表現方法を提案することで、自信をもって活動に取り組むことができるようにする。

### ○小中一貫の視点

小中9年間の学習の土台づくりの時期となる1年生の学習では、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れさせ、手や体全体の感覚を働かせることを大切にしながら、感じたことや想像したことから表したいことを見付けたり、好きな色や形を選んだり考えたりし、楽しんで活動できるようにする。休み時間には、児童と一緒に絵を描いたり、折り紙を折ったりして、入学前までの児童の様子を確かめ、本題材の学びにつなげていけるようにする。

また、ICT 端末の機能を使い、何度も試しながら表すことで、少しずつ自分のイメージに近付けていき、失敗を恐れず、安心してのびのびと絵に表すことができるようにする。

## 5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・紙を破いたりちぎったり、それらを並べたりして思い付いたことを表すときの感覚や行為を通して、紙を破いた感触や、いろいろな形や色などに気付いている。</li><li>・クレヨン、パス、のり、紙などに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表したいことを工夫して表している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、紙を破いたりちぎったりした感触や、紙の形や色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。</li><li>・いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や紙などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・つくりだす喜びを味わい、楽しく破いたりちぎったりした紙の形から思い付いたことを表す学習活動に楽しく取り組もうとしている。</li></ul>

## 6. 指導と評価の計画(全4時間)

ア いろいろな破き方を試し、破る感触や破いてできるいろいろな形や色に気付く。(1時間)

イ 破いた紙の形や色を基に、思い付いたことを工夫して表す。(2.5時間)

ウ 作品を見合い、互いの発想や工夫の面白さや楽しさを味わう。(0.5時間)

	子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思・判・表	主体的
1 / 4 時	<p>ア かみを びりびりやぶいて いろいろなかたちをつくろう。</p> <p>○紙を破るといろいろな形ができることを知り、様々な形に破く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いろいろな紙があるね。」</li> <li>・「ビリビリ音がして楽しいな。」</li> <li>・「細長い形ができたよ。」</li> </ul>	<p><b>知・技</b></p> <p>【思いのままに紙を破いたりちぎったりして、いろいろな形や色に気付いている。】</p>	<p>○大きさ・材質・模様が様々な紙を十分な量準備しておく。</p> <p>○初めに、いくつかの紙の破り方を例示し、破り方を一緒に確かめる。</p>	●	●	●
2 / 3 / 4 / 4 時	<p>イ まほうをかけて びりびりを だいへんしんさせよう。</p> <p>○破いた紙の置き方や並べ方、組み合わせ方などを試し、表したいことを思い付き、台紙ののりで貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この形富士山みたい。」</li> <li>・「逆さにすると牛にみたいだよ。」</li> <li>・「形を組み合わせたらキリンに見えるよ。」</li> <li>・「色を合わせてみると、恐竜らしくなったよ。」</li> <li>・「海の中みたいにしたから、台紙の色は水色にしよう。」</li> </ul> <p>○思い付いたことを、パスなどでかき加えたり、紙を貼り足したりして絵に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「周りの様子もかいたら楽しい感じになったよ。」</li> <li>・「ほかの紙も重ねて貼ってみようかな。」</li> </ul>	<p><b>思・判・表</b></p> <p>【いろいろな形や色を基に、自分のイメージをもちながら、どのように表すかについて考えている。】</p> <p><b>主</b></p> <p>【つくりだす喜びを味わい、楽しく破いたりちぎったりした紙の形から思い付いたことを表す活動に楽しく取り組んでいる。】</p>	<p>○破いた紙が素敵な作品になる過程を映像で見せ、掲示しておく。</p> <p>○横、逆さ、裏返しなど、いくつかの紙の置き方を例示する。</p> <p>○iPad のカメラの機能を使い、見え方を何度も試せるようにする。</p> <p>○見立てることに困っている児童に対しては、破いた紙が何に見えるか、教師や友だちと一緒に考えられる時間を設ける。</p> <p>○横、逆さ、裏返しなど、いくつかの紙の置き方を掲示しておく。(まほう①)</p> <p>○パスの色の塗り方を掲示しておく。(まほう②)</p> <p>○のりによる接着の仕方を掲示しておく。</p>	●	●	●

ウ びりびりびじゅつかんで すてきなさくひんを みつけよう。			
<p>○友だちと作品を見合いながら、表したかったことや面白さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「組み合わせた形がすてきだね。」</li> <li>・「紙の模様が、ちょうど動物の模様みたいになっているね。」</li> </ul>	<p><b>思・判・表</b></p> <p>【作品や紙などの造形的な面白さや楽しさなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。】</p>	<p>○色や形、組み合わせ方に着目させる。</p> <p>○作品について話したり、作品を見たりする活動を通して、自分や友だちの作品のよさや面白さに気付かせるようにする。</p>	

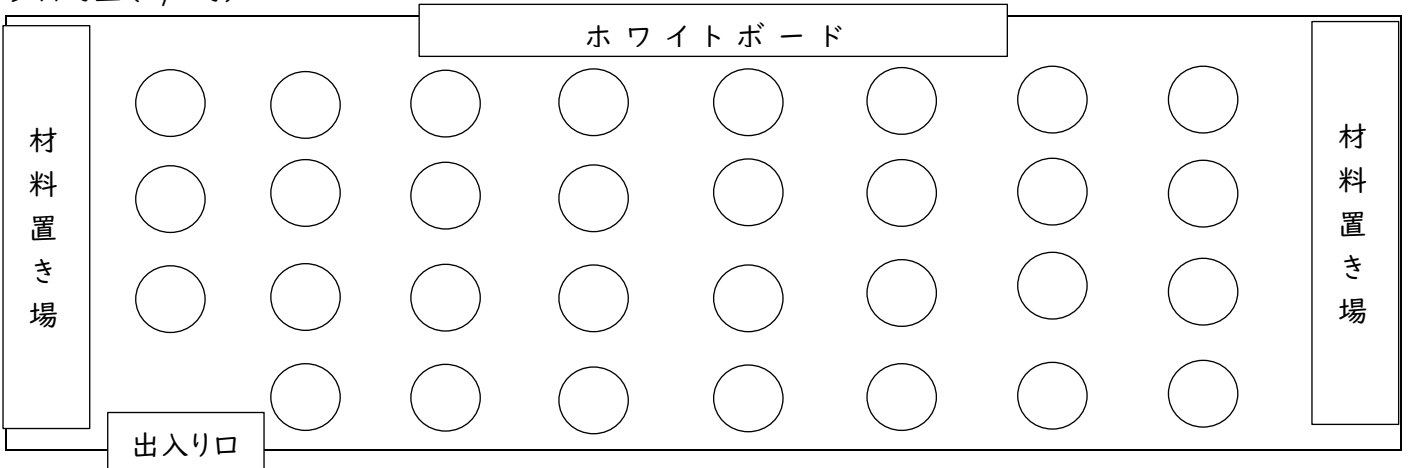
7. 準備

児童：破く紙（包装紙、新聞紙 など）、パス、のり、ぬれタオル、破いた紙を入れる袋 など

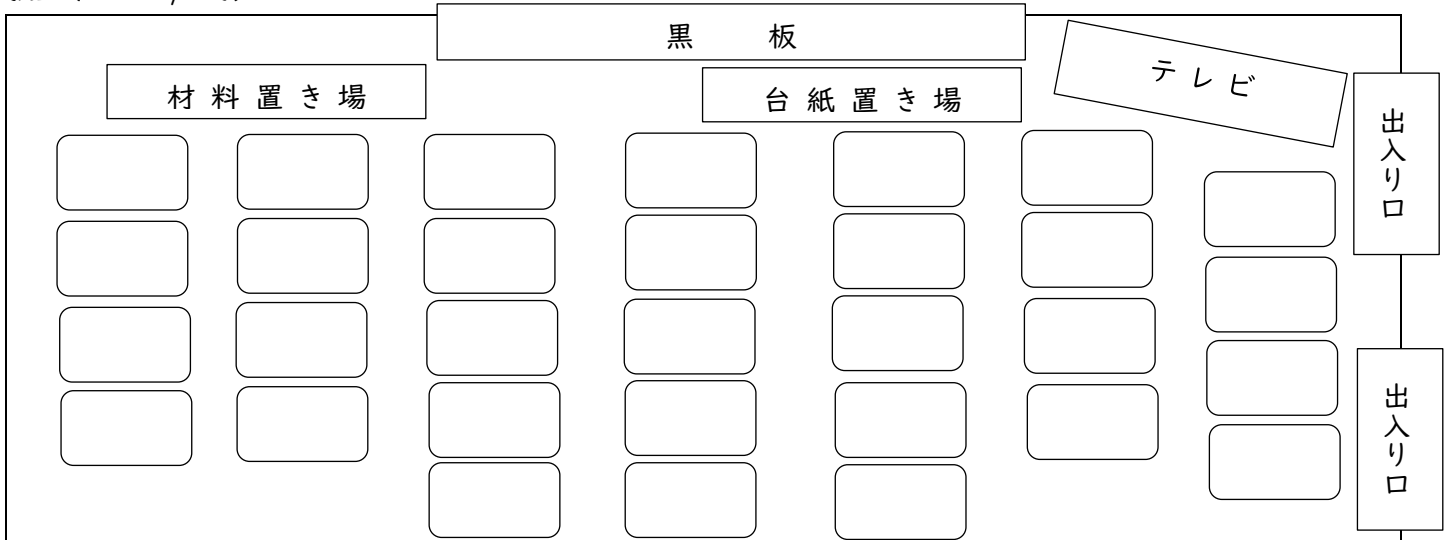
教師：破く紙（包装紙、新聞紙、色画用紙、クラフト紙、カレンダー、ポスター、古紙 など）、台紙となる画用紙

8. 場の設定

多目的室（1/4時）



教室（2・3・4/4時）



## 10. 研究内容についての振り返り

### 1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

【感じたことや想像したことから表したいことを見付け、思いのままに表す。】

◎他教科で見立てる経験をしたり、見立てる内容の本を読み聞かせを聞いたりした経験から、本題材でも、自分のイメージをもって進んで表すことができた。

▲紙袋の持ち手の紐をバッグの持ち手に見立てたり、破いた紙を折って鬼の角に見立てたりする児童がいた。紙袋の紐は事前に取り除くか、使わないことを児童に伝えるとよかった。紙を折って見立てた児童には、他の材料を組み合わせてみることを提案してみてもよかった。

▲ICT 端末の機能を使わずとも、自分のイメージを明確にもち、のびのびと絵に表すことができている児童が多かった。いきなり絵を描きこむことに不安を感じる児童のみの使用にするとよかった。

【活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。】

◎多目的室を利用し、紙を破る場を広くとったことで、体全体を使って、紙の感じを確かめたり、大きく破いたり、長く破いたりしやすいようだった。それでも細かくちぎる児童もいたので、個別に声掛けは必要。

▲多目的室と教室とで場を分けたため、「紙を破る時間」と「見立ててつくる時間」も分けたが、紙を破いた直後に、自然と見立てを始めている児童もいたので、連続した時間で学習させてもよかった。

### 2. 「主体的で・対話的な深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

◎授業の導入では、全体で紙を破いたり、破いた紙を見立てたりする時間を設けた。そのため、紙をいろいろな形に破いたり、破いた紙を見立てて作品をつくったりする活動に興味・関心を持ち、「新幹線に見えるよ。」などと自然と見立てを始めている児童がいたり、「もう描いてもいい？」と次の活動にやる気を見せる児童がいたり、学習の見通しをもって自ら進んで活動に取り組む児童の姿が見られた。

◎小さな作品をつくって早々に満足していた児童には、「このヘビたちは何をしているの？」「駅のホームにはどんなものがあるかな。」「おばけたちは他にもいる？」などと声を掛け、児童のイメージを膨らませた。対話を通して、紙を追加したり、周りに絵を描き加えたりして、粘り強く作品をつくる児童の姿が見られるようになった。作品を見せながら教師や友達に、「この遊園地にはジェットコースターがあるよ。」「魚のしっぽが動くようにしたよ。」と自分から楽しそうに話す児童もいた。

◎鑑賞の時間は、児童が自由に作品を見て回りながら話ができるにした。「見て！〇〇さんのダイオウイカすごいよ。すごく長いよ。」などと、形や色に着目して友達の作品のよさや面白さに気付き、紹介する児童の姿が見られた。破いた紙がさまざまな楽しい作品に生まれ変わったことを感じているようだった。また、自分の作品を友達に誉められて自信をもっている児童も見られた。

◎本題材の後に学習した「ちよきちよきかざり」では、ギザギザに切った黄色い折り紙を見て「雷みたいだ。」と言ったり、いろいろな形の穴が中央から広がって開いている折り紙を見て「花火に見える。」と話したりと、本題材の学びが生かされていると感じる児童の姿も見られた。